

殖民地に於ける市場及び生産資源の獨占にある。就中支那に於ける商品及び投資市場の獨占、生産資源の獲得が日本資本主義の生命である。

四、上述の三つの事情は資本家階級と政治權力との結合を急速に促進し、国内的には資本家階級の無産階級に対する搾取と壓迫を益々増大せしめ、且つその形式は尙初期の資本家階級によつてなされる如き最も露骨なる對立様式の域を脱しない。資本家階級が階級闘争を粉飾せんとし、講ずる社會政策乃至は共済的施設の如きすら尙日本資本家階級によつて拒否せられて居る。

五、更にまた日本資本主義をしてその帝國主義的發展を完備せしめ、日本帝國主義は東洋に於ける日本の地理的優越性と豊富なる軍備によつて維持せられて居るが、國內無産階級の犠牲を加へ、國際的には、殖民地の動搖、支那及び印度の革命運動の發展、英米帝國主義との對立の激化等によつて不斷に帝國主義戦争の危機に當面して居る。

かくて日本資本主義は歐洲大戰によつて一時的繁榮を見、一躍世界資本主義の列伍に加はつたが、戰後世界資本主義の生産力の恢復世界市場への再進出に當り、一大混亂と動搖を捲き起した。然し日本ブルジョアジエは漸く擡頭せる世界的反動の潮流に乗り、無産階級運動及び殖民地民族運動を抑壓し、幾多の金融恐慌を通じて滔々金融資本の支配を確立した。日本ブルジョアジエはかくして克己得たる一時的安定を永續化するために、田中内閣の露骨なる反動政策に代ふるに濱口内閣の欺瞞的社會政策を以てし、産業合理化と金融禁の強行によつて、直線的に金融資本に奉仕せんとしつゝある。

二、戰後第三期と日本資本主義

一、國際的には支那革命のプロレタリア化、印度民族運動の擡頭、アメリカ恐慌の影響等によつて日本資本主義の生命とする海外市場は益々狹隘を告げ生産制限は極度に強調せられて居る。日本ブルジョアジエは自己の利潤率の維持を國內及び殖民地無産階級の犠牲によらんとし、未曾有の失業と労働賃銀の質的低下が行はれて居る。昭和五年二月現在の日本銀行調査による指數は大正十五年を基準として、労働人員に於て八七・八、また定額賃金に於て九八・四を示して居る。ブルジョアの統計も今やこの事實を蔽ふことが出来ないのだ。我等の日常生活の経験はこんな程度でない事實はもつと更に深刻である。

二、金融資本支配の確立の結果として、従来の國內産業の整理統一は促進せられ、小企業の没落と共に伴ふブルジョアの零落と労働大衆の失業の増大は此期の特徴をなす。

三、農民の窮乏と共に伴ふ封建的遺習の基礎、就中家族制度の崩壊は急速に促進せられ農産の戦闘化と都市プロレタリアートの提擡の基礎は益々増大する。

四、産業の合理化と労働の強度化は世界資本主義のそれに遅れて開始せられるが、極めて急速に進められるので、その結果は上述の失業と労働條件の低下を加速度的に増大せしめる。

五、かくてこの期に於ける日本ブルジョアジエの攻勢は自ら従来の傳統的な風たる家族主義乃至は温情主義の名による、勞資協調主義の假面を放棄し、労働大衆をして必然的に闘争へと憤起せしめるかくして労働の攻勢は日本に於ても此の期の特徴をなすであらう。

六、金融資本の支配下に於ける労働の攻勢は、小ブルジョアの無産階級の政治闘争への参加と相俟つて、政治的闘争への結合並に政治的ストライキ闘争の促進の傾向を持つてであらう。特に久しき官僚の支配下に於て労働者の政治的自由を極度に制限せられ更に其後第三期に入つては、かかる政治的自由生長の基礎が著しく削滅せられつゝある今日我が労働階級は此の新しい労働の攻勢に乗じて政治的自由を戦ひ取りんとするであらう。

六、支那革命運動のプロレタリア化、東洋市場を中心とする英米日等の帝國主義列強の對立の尖鋭化、之等は一步一步世界戦争の危機を深めつゝある。

斯る諸矛盾は今や日本資本主義の到る所にその端初的表現をなしつつある。濱口内閣の一枚看板たる金融禁政一之を金融資本に奉仕する濱口内閣が、一時的安定を永續化せんとする。試みの代表的なるものだが、その斷行後間もなく、アメリカ恐慌の勃發と共に伴ふ世界的恐慌の新たな波に乗上げて崩壊の状態に陥れるが如きは、その代表的なるものである。この難破を震源として、中小企業の倒壊と工場閉鎖は相次ぎ、失業と労働不安は自熱化し労働争議は未曾有の數的增加と深刻化を示しつつある。

### 四、日本労働組合運動の情勢(其二)

#### 日本労働組合運動の重要性について

一、日本労働組合運動の隆興

爾つて我國の労働組合運動の情勢を見るに之亦日本資本主義の急激的發展の過程を最典型的に反映して居る。

我が組合運動は明治三十年代にその最初の出現を見たが明治末年の恐慌期に殆ど停止し、後歐洲大戰に至る迄極めて困難な過程にあつた。我が組合運動の斯くの如き困難に當つたの如き諸點に基くてものであつて、之等は今我が組合運動發展の障礙たる點に於て變りない。

一、産業的基礎の弱い企業に於ける労働者の組織は數次の恐慌に際して崩壊する。一方、大工場其他の基礎強き企業は大部分は國家資本乃至は國家の特別擁護の下に置かれて生長した。この官制的壓迫のために組合生長の餘地がなかつた。

二、初期の資本主義的雜工業はその利潤を未熟練工の酷使と極度の搾取によつて、日本資本階級は自由なる搾取を妨ぐる如き一切の労働者の組織に反対した。

三、政治的には社會政策其他の共済施設に資本家の自由なる搾取の障礙となすとして拒否せられたので、諸外國の如く、かかる施設の媒介により労働者の團結を促進する機会がなかつた。

四、加之急速に仕上げられたる我國資本主義内部には、我國特有の封建的遺習の大族制度に深く根を張りこの制度に依存する因襲と扶助關係は労働者の階級的生長と自覺を阻止した。即ち、資本家階級はこの遺習を利用することによつて温情主義、家族主義、勞資協調主義等の労働者の幻想を繼いだ。

五、労働者の大部分は農村より移動したる者で、雜工業も未熟練工の組織を主張せず、且つ相俟つて、労働者の勤続年限比較的少く(特に甚しいのは我國に主要産業の労働者に限らずして女工のそれである)、紡織女工の平均勤続年限は最近に於ても尚二年半を出ない。この諸點が組織の要素を欠いた。

かくて我國に於ける労働組合運動はその特殊の環境の中に於て久しく生長の機会を得なかつた。歐洲大戰による日本資本主義の躍進を契機として茲に始めてその基礎を見出した。即ち、歐洲大戰中に於ける日本資本主義の生産力の増大と市場の擴大は、巨大なる労働階級の生長を、労働者自身の需要の急激なる増大と資本主義の一時的上昇傾向に伴ふ労働者の攻勢は、一般社會主義的労働組合運動を確立するに至つた。

二、邦國労働組合の特殊性

我等はこの歐洲大戰を契機とする我國組合運動的發展の過程に於て、二つの特殊な點を見る。其の一は、一つは労働組合の分立發展の發生であり、他は我が組合運動が社會主義運動の間に於けるものである。可分の關係である。

先づ労働組合の分立發展の發生は労働の攻勢に乗じて發生する労働者の階級意識の増進に依り、或は自力者又は地域同業會を中心として、極めて分散的組織を以て出現する。然るに此の組織は組合運動もなされてあつた。然るに歐洲大戰の終結と共に限られて世界市場の恐慌に當り、労働者は組合を、その分散状態のまま、個別に資本の攻勢に對抗せしめた。この結果として、労働者の組織は組合を以て、個別の、早急の攻に導いて固定化せしめた。個別の組合は地域的労働者の結合を以て、個別的に、早急の攻に導いて固定化せしめた。個別の組合は地域的労働者の結合を以て、個別的に、早急の攻に導いて固定化せしめた。この結果として、労働者の組織は組合を以て、個別の、早急の攻に導いて固定化せしめた。

止まつた此の分散状態は、一工場主義が小範圍の資本家を以て、個別的に、早急の攻に導いて固定化せしめた。この結果として、労働者の組織は組合を以て、個別の、早急の攻に導いて固定化せしめた。

次は社會主義運動と組合運動との關係に我が組合運動は久しくサリテ、労働者の階級意識の増進に依り、或は自力者又は地域同業會を中心として、極めて分散的組織を以て出現する。然るに此の組織は組合運動もなされてあつた。然るに歐洲大戰の終結と共に限られて世界市場の恐慌に當り、労働者は組合を、その分散状態のまま、個別に資本の攻勢に對抗せしめた。この結果として、労働者の組織は組合を以て、個別の、早急の攻に導いて固定化せしめた。個別の組合は地域的労働者の結合を以て、個別的に、早急の攻に導いて固定化せしめた。この結果として、労働者の組織は組合を以て、個別の、早急の攻に導いて固定化せしめた。